

みずほCustomer Desk Report 2020/04/27号 (As of 2020/04/24)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	107.73
TKY 9:00AM	107.67	1.0775	116.02	GBP/USD	1.2354
SYD-NY High	107.76	1.0829	116.44	AUD/USD	0.6377
SYD-NY Low	107.38	1.0728	115.56		
NY 5:00 PM	107.52	1.0820	116.35		
NY DOW	23,775.27	260.01	日本2年債	-0.170	▲1.00bp
NASDAQ	8,634.52	139.77	日本10年債	-0.020	▲1.00bp
S&P	2,836.74	38.94	米国2年債	0.2215	0.14bp
日経平均	19,262.00	▲167.44	米国5年債	0.3742	0.53bp
TOPIX	1,421.29	▲4.69	米国10年債	0.6040	0.17bp
シコ日経先物	19,495.00	70.00	独10年債	-0.4765	▲5.20bp
ロンドンFT	5,752.23	▲74.38	英10年債	0.2900	▲0.10bp
DAX	10,336.09	▲177.70	豪10年債	0.9040	2.80bp
ハンセン指数	23,831.33	▲145.99	USDJPY 1M Vol	7.62	▲0.31%
上海総合	2,808.53	▲29.97	USDJPY 3M Vol	8.38	0.05%
NY金	1,735.60	▲9.80	USDJPY 6M Vol	8.49	▲0.03%
WTI	16.94	0.44	USDJPY 1M 25RR	-1.98	Yen Call Over
CRB指数	112.75	▲0.74	EURJPY 3M Vol	10.55	0.30%
ドルインデックス	100.38	▲0.05	EURJPY 6M Vol	10.47	0.06%

東京	ドル円は107.67レベルでオープン。仲値にかけてドル上昇する場面あったものの、買いが一服するとその後はもみ合う展開。107.57-107.76と値幅20銭程度の狭いレンジ内での取引にとどまり、結局107.61レベルで海外時間に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、107.61レベルでオープン。欧州株は下げ渋り、上昇に転じる指数が複数みられ、米株式先物は上げ幅を徐々に拡大したがドル円は上値やや重く推移。107.60レベルでNYに渡った。ユーロドルは、1.0760レベルでオープン。米景気支援策への期待などから、リスク回避的なドル買いは後退。1.0806まで堅調に推移し、1.0799レベルでNYに渡った。(ロンドン・トルジャー 00531 444 179 山本)
ニューヨーク	海外市場のドル円は、新規の手掛かり材料が乏しいほか、来週に予定されている日米欧の中央銀行の金融政策会合を控え、様子見ムードが強まる中、107.57-107.76の狭いレンジで推移し、107.60でNYオープン。朝方発表された米3月耐久財受注は予想を下回ったが、輸送用機器を除く数値は予想を上回り、まちまちの結果にドル円の反応は限定的だった。その後、高寄りスタートしたダウ平均がマイナス圏に沈む動きを眺め、円買い優勢の展開となり、107.40近辺までじりじりと下落。午後は「トランプ米大統領が4840億ドル規模の新型コロナウイルス救済法に署名」とのヘッドラインが流れるも、特段のサプライズがなかったことから市場の反応は薄く、上値重い推移が続く。107.38まで安値を更新後、終盤にかけて米金利が持ち直すと、ドル円にも買い戻しが入り、結局、107.52レベルでクローズ。一方、海外市場のユーロドルは、前日のEU首脳会談でコロナウイルス対策用の復興パッケージに合意せず終了したことが重しとなり、一時1.0728まで下落。しかし、その後ユーロのショートカバーやイタリアの格下げが見送られるとの報道にサポートされ、1.0806まで反発し、1.0793レベルでNYオープン。朝方は海外時間の流れを引き継ぎ、1.0820まで上昇する。買い一巡後、1.0785まで反落するが、終盤の米株の上昇や、イタリアの格付けが維持されたことが発表されたことを受けて、週末前のユーロショートカバーが進み、1.0829まで高値を更新し、1.0820レベルでクローズ。

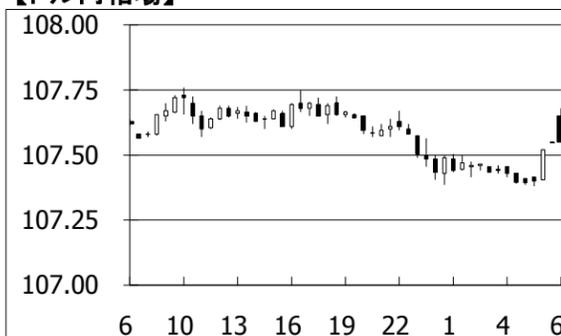
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
4月24日	15:00	英 小売売上高(除く自動車燃料・前月比/前年比)	3月 -3.7%/-4.1%	-4.0%/-4.8%
	17:00	独 IFO指数(企業景況感/期待/現況)	4月 74.3/69.4/79.5	79.7/75.0/80.5
	21:30	米 耐久財受注(前月比)速報	3月 -14.4%	-12.0%
	23:00	米 ミシガン大学消費者マインド 確報	4月 71.8	68.0

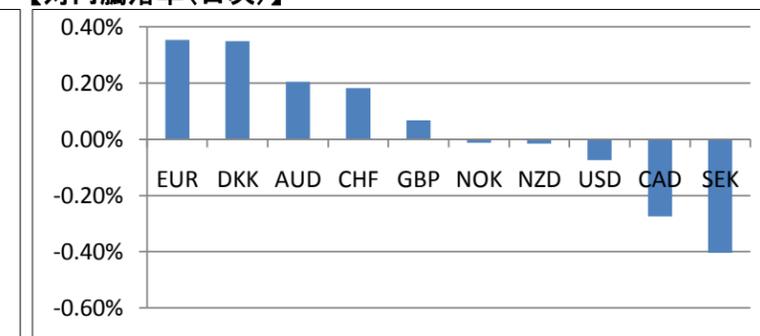
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
4月27日	-	日 日銀金融政策決定会合 当座預金政策金利	-	-
	-	日 黒田日銀総裁 記者会見	-	-
	23:30	米 ダラス連銀製造業活動	4月 -75.0	-70.0

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケット・インプレッション】 コロナ発信源の中国の行方は？

新型コロナウイルス発震源である中国では、足許の経済指標で1-3月期GDPが前年比▲6.8%(市場予想▲6.0%)と四半期統計が公表され始めた1992年以降で初めてのマイナスとなった。国家統計局の報道官も記者会見にて、コロナウイルス影響による経済指標の落ち込みを素直に認めている(個人的には非常に珍しいと感じるが、それだけインパクトが大きかった証左か)。一方で、強気な発言も垣間見えており、中国政府が掲げる「復工復産(工業、産業の復興)」は順調に進んでおり、第二四半期以降の経済回復を示唆している状況。実施に、徐々に拠点活動再開の兆しは現れ始めており、グローバルに先駆けて経済活動復活に向けた期待感が漂っている模様。斯かる中、中国株式は底打ち感を見せ反発の様相となっており、中国への資金流入が再び見込まれる展開が想定される。

しかしながら、中国国内景気の回復だけでは、本当の意味での「V字回復」には至らない。グローバルに感染拡大が終息していない中で、中国からの輸出(外需)の持ち直しがあつて初めて、「復工復産」の達成が実現されるだろう(今は、発信源である中国が世界景気を鈍化させていることで、自分自身の首を絞めてしまっているようなもの)。依然として各国におけるロックダウンや移動禁止・制限の継続解除までには至っていない中、5月下旬に開催予定が見込まれる全国人民代表大会で、習近平指導部の打ち出すメッセージや景気刺激策には目が離せない。(綿引)

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
ベア	ベア	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア
岡本	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	谷舗
ブル	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア	ベア	ベア	ベア	ベア

ブル	ベア
6	14



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。